

coda'z 1

●図工室の工夫、教えてください

【用具編】



用具

◎用具は、常に整頓しておく

教師が一見して、用具の数がそろっているか分かる状態を工夫する。用具類の紛失のない図工室。
→後片付けが楽で、授業の転換がスムーズになる。

◎しまっておく用具といつも使える用具

使用頻度の高い用具は、ラベルや表示で児童にも場所が分かるようにしておく。
のこぎりやカッターナイフなど、安全な使用を心がけたい用具は、準備室で管理しよう。



電動のこぎりにはカバーを掛ける
刺激を減らす。誤って触る事故をなくす。

ハンガーピンチは使えるぞ
筆や刷毛、いろいろな物を干しておくで長持ちするし、
みんなしまってくれる。

錐は1カ所で
錐は一つの場所で使う。手を刺す事故が減る。



coda'z 1

● 図工室の工夫、教えてください

【材料編】



材料

◎ 「循環型」の材料置き場を目指す

ペットボトルキャップやひも、布、段ボール、木ぎれなどは、学校だより等で保護者から集めたり、子どもに持ってこさせたりする。

日々の生活の中で使いそうな物を捨ててしまうのではなく、図工室に持ってきたら材料になることを子どもに周知しておく、自然と材料が集まってくる。

※図工専科が一人で集めるのではなく、子どもとつくる図工室を目指す。



色画用紙は色別に分けて
選ぶ時に見やすい。

木ぎれは大きさ毎に
図工室掃除の子どもたちへ選別をやらせよう。

見出しは黒テープ
カラフルな図工室で目立つのは黒。

coda'z 1

●図工室の工夫、教えてください

【掲示・ICT編】



環境

◎日常的な造形環境づくり

名画や児童の作品を掲示して、児童が自然な鑑賞を通して造形表現への期待がもてるようにする。

◎ICT環境を整備する

スクリーン(モニター)、プロジェクター、実物投影機を図工室に設置したい。

- ・手元の微細な動きを見せられる。
 - ・動画でイメージをもたせる。
 - ・タブレットを使って子どもの活動を振り返る。等
- 教師から子どもへの情報伝達を最大限に円滑にし、造形活動の時間を十分確保する。



Ipad の活用

- ：写真を撮っておいて、写真を見ながらまとめをする。
- ：今までの参考作品をスライドショーで流す。困った子はそれを見に行くこともできる。

タイマー

時間内に終わらせるのも勉強です。

掃除当番表

きまりはシンプルに。

見出しは黒テープ

カラフルな図工室で目立つのは黒。



coda'z 2

●あなたの展覧会、教えてください

【共同作品系】

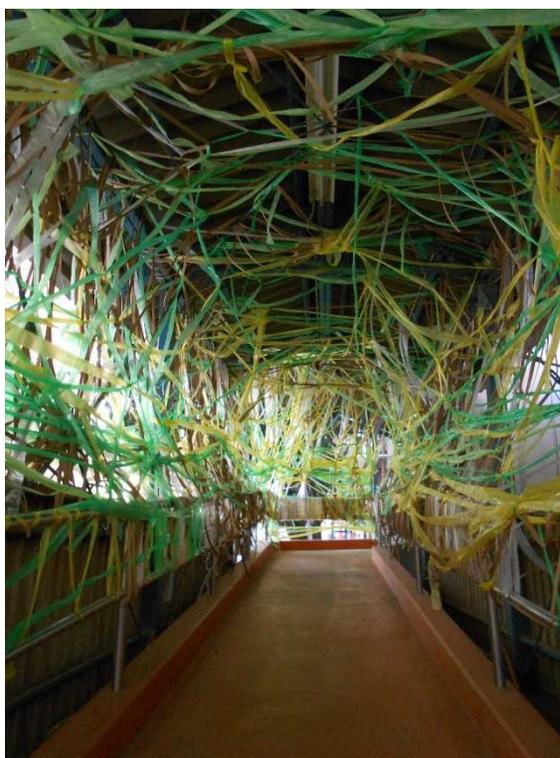
共同作品

◎非日常的な空間演出

体育館の雰囲気を変えよう。

◎展覧会のテーマ

展覧会のテーマと連動して共同作品を製作したい。



ビニールや障子紙など軽い物で
体育館の天井を見えなくするのが雰囲気を変える近道。

体育館への通路
スズランテープでつないでみよう。

安全に配慮しよう
ワイヤーやロープなど強度のあるもので引っ張ろう。





coda'z 2

●あなたの展覧会、教えてください

【展示編】



展示方法

◎なるべく子どもの目線に合わせよう

展覧会は誰のためのものなのだろう。言うまでもなく子どもたちである。子どもたちの目線に合わせた展示を考えたい。

◎光を作品にあてよう

ステージのスポットライトや学芸会でのスポットライトなど、作品に効果的に光を当てたい。



圧迫感のない展示

なるべく後ろが見えるような展示が圧迫感を減らす。

観覧者の導線

しっかりと歩くスペースを確保したい。

暗室をつくる

ステージ裏を活用する学校が多い。

校内での展示

体育館で展示するとは限らない。



coda'z 2

●あなたの展覧会、教えてください

【その他】



その他の工夫

◎映像の展示

児童の活動風景やメッセージなど、動画での展示も効果的。左図は自作スクリーンにプロジェクターで製作風景を映している

◎展覧会会場は図画工作で

家庭科作品は保護者会の時に廊下に掲示するなど、代替案を出して展覧会会場の統一感をもたせたい。

◎展覧会は子どもとつくりましょう

会場を図工専科一人で作るのではなく、実行委員を募集して子どもたちと会場をつくる。



チラシは魅力的な物を
展覧会への期待を膨らませます。
キャプション
説明する：親切
説明しない：子どもと親の対話
公開図工
授業を公開する。
地域との連携
地域の人材を活用した授業。
アンケート記入場所
ゆっくり座る場所もあるといい。